侵略的日本語教育と国際交流のための日本語 ③

天理教語学院
日本語教育センター主任
大内　泰夫　*Yasuo Ouchi*

教える立場から習う立場に

1994 年、筆者が現在勤める天理教語学院が開校した。その翌年、天理教海外布教伝道部長（当時）から留学の話があり、相談の上でソウルに留学生として派遣されることになった。韓国へは学生時代以来 10 年ぶりでもあり、日本語教師としては国内、海外での日本語教育も経験した後である。学習者の立場にまた戻るということで、大変貴重な経験ができたと感謝している。

約 10 年ぶりに訪れたソウルであるが、あまりの変わりように驚いた。すべてが近代化されたような印象を受けた。しかしその反面、ソウルの中心を流れる漢江にかけられていた聖水大橋の 1994 年の崩落、また 1995 年の三豊百貨店の崩壊があった頃で、急激な近代化が招いた歪みが現れているのかとも感じた。延世大学校言語研究教育院の語学堂に通い始めたが、教える立場から習う立場になって、授業を観察することで、客観的に授業はどう展開していくべきなのかを考える良い機会にもなり、学んだことは多かった。

アイデンティティ

海外に長期滞在するのは２度目であったが、自分が日本人であることをあらためて感じた。クラスには日本人、在日韓国人、在米韓国人、在ウクライナ韓国人、中国人、アメリカ人などさまざまな人がいた。在米韓国人は音声的にはネイティブ韓国人と変わらないが、文字・表記の面では弱いようにも感じた。日本人や在日韓国人はその反対で、苦手な発音などもあるが、テキストで勉強することも多く、文字には慣れているので、比較的読み書きは強い傾向があるようだ。それぞれの母語の影響で聞き取りにくいこともあったが、クラスの人とコミュニケーションは取れていた。日本へ来る留学生も日本語学校で同じような経験をしているのだろうと思うと、言葉が通じない初級の間はさぞや大変だと思う。フランス滞在中も語学学校のアリアンス・フランセーズに少し通ったが、言いたいことが言えないもどかしさはやはりストレスになる。こういった環境では、文化習慣の違いがあるだけにコミュニケーションがしっかり取れないと誤解や偏見のもとになる。異文化接触の場にいるとアイデンティティを意識させられることが多いが、アイデンティティで悩んだり、考えたりすることはしょせん些細なことだと学べる機会でもあるのかと思う。なぜなら、そのコミュニティを構成している皆があまりに多様だからである。共通のアイデンティティは「地球人」なのかもしれない。「おふでさき」の「せかいぢういちれつわみなきよたいや　たにんとゆうわさらにないぞや」（13 号 43）が思い起こされる。

不思議な出会い

ソウルの鍾路に時事日本語学院という大手の語学学校がある。時事日本語社という日本語教育関係の書籍を扱っている会社の日本語学校である。時事日本語学院の常任顧問である金照雄氏には滞在中、本当にお世話になった。留学中、韓国で日本語教育に関する書籍や教科書などを調べたくて、時事日本語社を訪ねて行ったのだが、日本でもアルクが発行している『月刊日本語』の韓国版の編集部を紹介され、とても親切にしていただいた。いろいろと教材を見せてもらいたいと申し出たのだが、逆に新刊書や会話教材などを譲っていただいた。代わりに取材を受けたり、記事を書いたりもした。筆者が天理から来ていると話したところ、金照雄氏は在日の方で韓国語を学んでいる時に、天理の方と一緒だったと話してくださった。筆者は大変驚いて、誰なのか聞いてみたら、同じ職場の先輩の名前や筆者が韓国語を習った恩師の名前が出てきて、さらに驚いた。そして「天理の人は親切だ」ということを言われた時にはとても嬉しい気分になった。天理教ではいろいろな国の大学に派遣留学生を送り続けているが、まさか自分の留学中に職場の先輩の名が出るとは思いもしなかったので本当に驚いた。人と人のつながりというのは不思議なものだと思ったが、それよりも天理の人は親切だという印象を持たれていたことが何より嬉しかった。「文化活動としての日本語教育」については以前にも述べたが、現地の人と接点を作り、時間をかけて交流を深め、いろいろ理解してもらうことが布教にもつながることを、あらためて考えさせられる。

日本語を学ぶ韓国人

朝鮮総督府が置かれ、国語としての日本語教育が行われたのが 1910 年から 1945 年までのことであるから、1995 年当時、国語として習っていた世代は 70 代から 80 代の方々だろう。滞在中に高齢の韓国人と日本語で話す機会はあまりなかったのだが、日本語を勉強する若い韓国人にはよく会った。もちろん外国語として習っている人たちだが、日本が好きで勉強しているという若い人も多かった。日本のアニメや歌も好きだという若者も多い。それはそれで結構だが、日韓の歴史的なことには関心がないのかとも感じた。筆者の勝手な思いに過ぎないが、韓国の若い人たちは歴史というのは学校で習う勉強の一つで、日本に対して特別な感情を持っているわけではなく、日本語の勉強も外国語として好きで勉強しているという印象を受けた。時の流れがそうさせているのかとも思う。日本で韓流ブームが起こり、韓国の映画やドラマが大好きな人が大勢いることと変わりないのかもしれない。そこから言葉や歴史に興味を持ち、研究する人が出て来てもおかしくない。このことは健全なことだとも思う。

大学生時代に初めて韓国を訪れた時には「伊藤博文、豊臣秀吉をどう思うか」など歴史、政治に関する質問が多かったが、関心事も大きく変わって、留学中そんなことを質問する人はいなかった。1988 年のソウルオリンピックから大きく変わったのだとも感じた。YouTube でも日韓の若い人たちが動画でお互いの国のことを紹介したりする時代である。国際交流のための日本語教育の時代が進んでいる証拠なのかもしれない。日韓の間にまだまだ問題は多いが、世代が変わり、「国際交流のための日本語教育」の時代に勉強した人たちには諸問題解決の糸口を見つけてほしいと願ってやまない。